

第1回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会

日付：令和6年8月8日(木)

時間：午前10時30分 開会

場所：本庁4階 庁議室

【開 会】コミュニティ推進課 進行（10:30～）

志布志市ひとがともに輝くまちづくり条例（以下条例という。）第23条第2項の規定により、委員の過半数15名の出席を得て会議が成立

【課長挨拶】コミュニティ推進課長あいさつ

本日は御多用の中、令和6年度第1回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から男女共同参画をはじめとした本市のダイバーシティ社会の推進に御協力いただき、ありがとうございます。

さて、人口減少と人材不足が顕著になりつつある社会情勢において、多様な人材が社会で活躍しやすい環境づくりを推進することは、これからのまちづくりにおいて欠かせない視点です。

しかし、性別の固定概念から生じる役割分担や性別を理由にした無意識の思い込みが男女共同参画や多様な人材の活躍の推進を妨げる要因として存在することは否定できません。

ジェンダー平等と女性が生きるための力を身に付けるための取り組みは、国際的にも重要なテーマであります。今年6月に世界経済フォーラムから発表されたジェンダーギャップ指数という男女間の格差を分析して数値化したもので、日本は、世界の調査対象国146か国中、118位でした。経済、政治の分野で世界に比べて低水準であることが影響しているようです。

本日は、今年度第1回目の会議ということで、今年度の取組とプランの評価方法、ダイバーシティ推進企業認定制度についてご協議いただきます。それぞれ忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いします。

【協 議】 進行：杉田会長

(1) 男女共同参画及び性の多様性に関する取組について

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが男女共同参画及び性の多様性に関する取組について説明し、意見を求めた。

（質疑応答）

Q 1 パートナースHIP宣誓制度を利用される方の見込みとかはあるのか。

A 1 制度を利用される方の見込みはありません。制度導入に向けてのニーズ調査の必要性はなく、制度を導入することによって住みよいまちだと感じていただくために制度の導入に向けて取り組んできた。以前のアンケートで性自認や性的指向に悩んだこと

があると回答した方が、6.6%という結果だったので、制度が導入されたことで志布志市に住んでよかったと感じておられたらいいと思う。

Q 2 パートナースhip宣誓制度を利用された方がいて、利用された方の意見を聞くことができたなら、実感できると思った。相談等もないということなので、今後、共有できる意見等があった場合は報告してほしい。

A 2 パブリックコメントを行った際に、意見をいただいていたと思うが、詳細は手元に準備できていない。今後、共有できる意見等があった場合は報告していきたい。

Q 3 市民講座や出前講座を市民や各種団体に実施されているようだが、市民の代表である議員を対象とした講座や研修は行わなかったか。

A 3 令和5年度は議員を対象とした講座等は実施していない。

Q 4 令和6年度の取組に高校生との交流会が予定されているが、志布志高校との交流会に何社くらいの企業が参加されるのか。参加される企業がセミナーやワークショップに参加されることとなるのか。

A 4 志布志高校生との交流会に参加される企業は10社である。高校生は1年生で、その他に学生アドバイザーとインターンシップの学生に参加してもらう。セミナーやワークショップへの参加は、今回参加してもらう企業には案内し、希望する企業を募る。今回参加される企業の中にワークショップに参加したいと希望している企業が1社ある。

【協 議】(2)「第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」について

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが「第4次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」について説明し、意見を求めた。

【委員発言】 評価の考え方の例として、健康診断を取り上げてみると、健康診断に多くの方が行っているとか行っていない人が何人いるとか、前年度と比べると何%増加したとかが前年度までは評価の基準になっていたようだが、本来は多くの方が健康診断に行けばいいわけではなく、健康診断に行くことによって健康寿命が延びるとか長生きできるとか健康に動けるといったことが目標で評価指標にするべきだと考える。今回の評価の変更は、その点を改善されたと理解している。評価指標を事業実施した結果による効果にすることはよいが、実際に効果で評価されているかどうかを見極めることが課題になる。また、この先のことを考えれば、予算を意識した評価の在り方も必要である。予算には限りがあるので、最小の費用で最大限の効果をあげるということを評価に盛り込むともっと良くなると考える。

【協 議】(3) ダイバーシティ推進企業認定制度（案）について

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループがダイバーシティ推進企業認定制度（案）について説明し、意見を求めた。

（質疑応答）

Q 1 若い方々が雇用面の条件として休暇を取りやすいとか、自分らしく自分の時間を確保できるかといったことを重視して働きたいと考えているようだが、休暇を取得しやすいといった側面を検討できないか。産休や男性の育休の取りやすさといったところを盛り込めないか。また、認定項目の数によってメリットに差をつけるとは具体的にどういったことなのか。

A 1 ご意見いただいた休暇の件については検討したいと思う。認定項目の数によってメリットに差をつけることについて、具体的に申し上げられるものは無いが、例えば、取組項目によって獲得できる星の数が多い企業を優先的に市のホームページで紹介するなどが想定される。

Q 2 子育てなど、女性が働きやすい環境が整ってほしいと考えているので、そのような企業が増えるような取組みにしてほしい。

A 2 企業が一人一人の特性を活かして、誰もが活躍できる場を設けることや企業の様々な取組みを周知することで、人口減少や担い手不足にあるなか、企業の魅力を感じてもらい、人材の確保に繋げることを後押しできればと考えている。働きやすい環境が整っている企業に魅力を感じるので、この制度によって企業の魅力を発信できるような取組みにしていきたい。

【協議終了】議長降壇

【その他】コミュニティ推進課 進行

【委員発言】 ダイバーシティ推進企業認定制度（案）の取組みは良い取り組みだと感じたが、企業だけでなく、個人事業所や小規模な事業所などにも何らかの助言等をしてほしい。また、地域コミュニティ協議会に携わっているなかで、女性の活躍する場面を地域コミュニティ協議会の活動でも増やしていきたいので、女性活躍に関することを地域コミュニティ協議会に周知して行ってほしい。

【事務局発言】 小さな事業所等には、ダイバーシティ推進企業認定制度（案）の取組みに限らず、高校生との交流会に参加して高校生の生の声を聞いてもらうなど、様々な取組みについて周知していきたい。地域コミュニティ協議会での女性活躍については、意見しやすい、話しやすい環境づくりを行っていただくよう地域コミュニティ協議会に話をしていきたい。

【委員発言】 ひとがともに輝くまちづくり審議会で審議を重ねることは大きなことである。人口減少が進む日本で人口流出は課題の一つである。移住の仕事に携わっていて、住みたくなるまちの条件として、移住したら補助金が貰えたり、医療機関やショッピングセンターなどの商業施設が充実してたりといった話はよく出てくる。一方で、住み心地がいいとかまち全体で行っている取り組みだとかが話に出てくることは少ない。そのようななかで、高校生との交流会に参加した際に、高校生が一度、志布志市を離れても志布志市に帰ってきたいと思うかどうかを尋ねた時、帰ってこないと答えた生徒は、娯楽が無いとか給料が都市部に比べて安いといった条件的なものを話したが、帰ってきたいと答えた生徒は、地域で培った思い出だったり、地域の人とのつながりがあるからだだったりということを話してくれた。時間がかかることかもしれないが住民の満足度を上げるような取り組みは、すごく大きなことである。効果を数値で示すことは困難だと思うが、審議を重ねて、よりよいまちづくりに繋げていきたい。

【委員発言】 高校生との交流会の取り組みに参加できない委員もいるので、交流会の様子やどのような意見があったかということ、また、出前講座を受講された方の反応や意見を審議会で報告していただきたい。

【事務局発言】 次回の審議会で取り組みの様子や意見等について報告できるようにしたいと思う。また、市報等でも紹介していきたい。

【委員発言】 私が所属する団体でも、出前講座を利用し、多様性やL G B T Qの勉強をさせてもらい、大変勉強になったという声があったので、様々な団体に利用してほしいと思っている。また、高校生との交流会の参加者や取り組み内容について少し教えてほしい。

【委員発言】 事業所側で参加したので説明させてほしい。まず、参加する事業所全体で高校生との交流会の取り組み内容を勉強した。その後、高校生のいる教室に移動し、各事業所がグループに分かれている高校生の所に入り、事業所の紹介を行い、高校生との意見交換を行った。高校生の意見として、親が農業（畜産）をしているので家を継ぐことになるのではないかと思い、道が決まって嫌だな、楽しみがないなという生徒がいた。それを聞いて、私は自分の子どもには自分の人生だから、自分の道は自分で選べばいいんだよと伝えていたことを高校生に話した。そこに娘も一緒に参加していたので、娘の想いも高校生に話したら、高校生から色々な話や意見を聞くことができ、大変盛り上がった。高校生が、今、何を考えているのかを聞けて参考になった。

【事務局発言】 高校生との交流会は、高校生をグループ分けして、1つのグループに1事業所に入ってもらい、事業所の取組みを高校生に説明し、高校生の率直な意見を聞いて、事業所が今後の取組みの参考にするといった内容である。高校生にとっても各事業所の取組みを知るいい機会になっている。

【事務連絡】

- ①出前講座の活用依頼
- ②市民講座への参加依頼

【閉 会】 コミュニティ推進課 進行（～12:00）